

行政視察報告書

令和5年10月5日

委員会名		議会広報広聴常任委員会
参加者	委員長	角田真美
	副委員長	池田彩乃
	委員	城戸佐和子 栗畑寿一朗 鈴木和宏 中野正幸 稲永朝美 大川晋作
期間		令和5年7月24日（月）～25日（火）
視察地、 調査項目 及び概要	愛知県 知立市	<p>1 高校生議会について</p> <p>(1) 本市の現状と課題 本市においては令和3年度から議会報告会の一つの形として小中学生を対象とした議場見学会を行っているが、より効果的な開催や幅広い世代に対するの広報広聴活動を見据え、検討していく必要がある。</p> <p>(2) 調査目的 本市が実施していない高校生に対するの事業を行っている先進市の事例を視察し、本事業の開催までの経緯、開催方法、効果や課題について調査をすることを目的とする。</p> <p>(3) 調査概要 知立市議会では、市制50周年記念事業として市内3校の参加による高校生議会の開催について、主権者教育の一環として企画したものであり、ひいては若年層の投票率向上、若者の立候補につながることも期待したものであった。学校側が高校生議会における政策提言への成果を求める一方、市議会は、議会活動の体験、議員と協議する体験を通して、市議会や地方自治に関心を持ってもらうことを目的としているため、その違いをどのようにすり合わせていくのかが今後の課題であるとしている。</p> <p>2 議会モニター制度について</p> <p>(1) 本市の現状と課題 本市において議会活動の広聴としては、議場見学会、市民に対するアンケート調査が中心となっている。幅広い世代に対するの広聴活動を見据え、他市の取組等を確認する必要がある。</p> <p>(2) 調査目的 議会活動の広聴として、先進的な取組を行っている他市の事例を視察し、本制度の導入までの経緯、市民からの反響、議会運営への影響や課題について調査をすることを目的とする。</p> <p>(3) 調査概要 知立市議会では、市民から議会活動や委員会活動についての意見、要望等を聴取し、より市民ニーズを反映した議会運営を図り、開かれた議会にするため、議会モニター制度を設置している。議会本会議や委員会等を傍聴し、議会報告会、市議会だより及び市議会ホームページに関する意見の提出、議会が行うアンケート調査への回答、議会モニター会議への出席など、その活動は主に議会運営に関わるものとなっているが、今後は議会モニターの人員確保が課題であるとしている。</p>

		<p>3 考察</p> <p>今回の視察では、知立市議会での広報広聴に対する取組状況について、市議会議長のほか7名の市議会議員に直接話を伺う機会となった。議会を積極的に市民に開き、市民と交流していく取組として、高校生議会では、高校生が考えたテーマについて、市議会議員も高校生と一緒に協議を実施するに当たり、ファシリテーション能力の大切さが必要であることはもとより、その開催方法など、本市における今後の広報広聴活動の参考となるものであった。</p>
<p>視察地、 調査項目 及び概要</p>	<p>愛知県 瀬戸市</p>	<p>1 情報番組について</p> <p>(1) 本市の現状と課題</p> <p>本市においては議会活動の広報としては、市議会ホームページ、市議会メールマガジン及び市議会だよりが中心となっている。現在、本委員会では、市議会として本来発信すべき情報やその媒体について検討を行っているところである。</p> <p>(2) 調査目的</p> <p>議会活動の広報として、先進的な取組を行っている他市の事例を視察し、本番組の制作までの経緯、制作のノウハウ、市民からの反響や課題について調査することを目的とする。</p> <p>(3) 調査概要</p> <p>瀬戸市議会では、議会だより「広報せと」やホームページによる情報提供について、さらに分かりやすく、広く市民に情報提供する観点から、映像と音声を組み合わせた番組制作への取組が有効であるとし、地元のケーブルテレビに番組制作放送を委託している。情報番組は広報広聴協議会の広報部会が所管しており、議員自らが番組内容を考えシナリオを作成しているが、毎回スムーズに番組構成を考えられるよう、「議会を知ろう！（年間共通）」、「トピックス（そのときのテーマ）」、「定例会の報告」の3本柱を構成パターンとして工夫を凝らしている。</p> <p>2 市民と議会の意見交換会について</p> <p>(1) 本市の現状と課題</p> <p>前述のとおり、本市においては議会活動の広聴としては、議場見学会、市民に対するアンケート調査が中心となっている。既存事業のより効果的な取組方法や幅広い世代に対しての広聴活動を見据え、検討しているところである。</p> <p>(2) 調査目的</p> <p>幅広い世代を対象に意見交換会を実施している先進市の事例を視察し、本取組の開催までの経緯、市民からの反響、実績や課題について調査することを目的とする。</p> <p>(3) 調査概要</p> <p>令和元年度から令和4年度までにおける市民との意見交換会（せとまちトーク）は、市内8地区で開催されたほかアンケートにより幅広い意見聴取が行われた。意見交換会では、論点を明確にすることはもとより深掘りした意見交換が可能となるよう、テーマを設定した上で開催したことで、政策提言等にもつなげられていた。瀬戸市では、参加者の固定化や、政策資源を得ることに難しさがあるという課題があったものの、テーマを設定して意見交換した手応えなどを共有できたとのことであった。</p> <p>3 SNSの活用について</p> <p>(1) 本市の現状と課題</p>

		<p>前述のとおり、本委員会では、市議会として本来発信すべき情報やその媒体について検討を行っており、SNSによる情報発信の有効性の検証が必要となっているところである。</p> <p>(2) 調査目的</p> <p>既にFacebook、Instagram、YouTubeによる議会情報の発信を行っている先進市の事例を視察し、これらの取組の詳細、運用までの経緯、市民からの反響や課題について調査をすることを目的とする。</p> <p>(3) 調査概要</p> <p>議会広報活動のさらなる充実のため、瀬戸市議会に関する情報を広く発信することで、議会基本条例に掲げる開かれた議会を一層目指すことを目的とし、Facebook、Instagram、YouTubeを運用している。情報発信は議会等の開催内容、イベントや議会など即時性が問われる内容であるため、端的に写真など多めにしてアップしている。ただし、ソーシャルメディアの利用者からのコメントに対しては原則返信せず、市議会に対する意見等はメールまたは電話での対応としている。</p> <p>4 考察</p> <p>市議会議員の全員が会員となっている瀬戸市議会広報広聴協議会では、市議会議員が広報部会及び広聴部会に分かれ、各々の所掌事務を担っている。瀬戸市議会では、これまで議会改革への取組において市議会議員が主体的に広報広聴に取り組んできているところであり、市議会議員自らが考えた情報番組の制作や、市民の意見を市民に政策として還元するための政策サイクルを念頭とした意見交換会など、個別具体的な取組について調査する中で、広報広聴に対する関与の在り方やファシリテーション能力の大切さについて改めて認識することができ、とても有意義であった。</p>
--	--	---